



## ジェンダーと文学の研究

人文科学系・言語文化学領域

高岡 尚子

教授

TAKAOKA Naoko

博士(文学)(大阪大学)

■研究キーワード ケアの倫理と文学,ユートピア/ディストピア文学,ジョルジュ・サンド,フランス文学,ジェンダー,19世紀フランス文学

■主な所属学会 ジェンダー史学会,日本フランス語フランス文学会,大阪大学フランス語フランス文学会,日本ジョルジュ・サンド学会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.53fc8d7d18171b4e520e17560c007669.html>



研究者総覧

### 研究概要

文学を「ジェンダー」の視点から考えるには、大きくふたつの方向性があると考えています。ひとつは、これまで作られてきた文学作品のなかに、性に関することがどのように描かれているかに注目すること。ふたつめは、「ジェンダー」についての考察が深まった結果として、あらたに生み出されている作品に関心を寄せることです。これらの方法論を両輪とすることで、文学の営みにおけるジェンダーのあり方を、時代や地域による変化も含めて大きくとらえ直すことができると同時に、現代社会における「性」の問題の背景や変化の様子を理解することができます。「ジェンダー」は「性」に関わる事からの多くを含み込む、とても広い概念です。人間の思考をフィクションの形で示す文学作品は、そうした「性」のあり方の具体的な可能性を伝えてくれます。すでに表現されたもの(文学作品＝小説や戯曲、詩など表現の方法は多様)から、そこに埋め込まれたひとの営み、なかでも「性」に関することを掘り出し、現在の生活へと連結させていくことを、研究の課題にしています。

### アピールポイント

現在取り組んでいる(関心を持っている)課題は次の2つです

1. 19世紀フランスの女性作家ジョルジュ・サンドの人生と作品は、「ジェンダー」の問題に関する重要な示唆に満ちています。サンドの作品は日本語にも多く翻訳されていますが、なかでも『愛の妖精』を中心とする「田園小説」は、フランス中部を舞台とし、作中人物はほとんどがその土地で暮らす農民たちです。作家はまた、地域の人々と深い関係を結んでいただけでなく、福祉に強い関心を持ち、新聞や雑誌を通じて政治的発言も行っていました。サンドの描いた「田園小説」を、こうした「政治的」観点にジェンダー視点を加えながら再読することで、これらの作品があるべき社会のために発せられた強いメッセージであることが見えてきます。現在、これらのメッセージをさまざまに読み解きながら、今日の私たちの社会において重要な課題である「エコロジー」や「ケア」の問題へと連結させることを課題としています。この視点は、フランスだけではなく、日本における地方の価値の再評価にもつながる可能性があると考えています。

2. 2019年に大学で開講している「ジェンダー言語文化学演習」の内容をまとめた『ジェンダーで読む物語 赤ずきんから桜庭一樹まで』を刊行しました。「赤ずきん」のように長く読み継がれてきた作品が、現在に至るまでどのように受容されてきたか？また、現代の日本の作家たちが描く物語のなかに「性」のあり方がどのように表現されているか？このような問題を、読者たち(本書の場合は受講学生たち)が、自分たちの考えを出し合いながら深く読み込んでいく経験は、私たちが実生活の中で経験している「ジェンダー」の問題を浮き彫りにさせる効果を持つことがあります。こうした「ジェンダー」をテーマとした「ワークショップ」のような試みを、学内だけではなく、さまざまな場所で実践していきたいと考えています。



実際に作品を読み、ジェンダー視点から考えるための手引きとしても使えます



フランス中部ノアンにあるジョルジュ・サンドの家。現在はこの地域の重要な観光資源です